

## I. 研究主題

### 子どもが主体的に表現できる授業のあり方

～共通事項を意識した指導法の工夫～

## II. 研究目的

### 1. 研究経過

2015年度は、研究の2年次であり「豊かな表現力を高める授業のあり方」というテーマのもと、さらに研究の幅を広げ、児童生徒の表現力が豊かになっていく授業実践や研修会を積み重ねてきた。

小学校は、打楽器の実技研修会(講師鈴木逸郎氏)を行い、「打って楽しい器(うってたのしいうつわ)」をテーマとし、基本的な打楽器の指導方法等を学ぶことができた。また、第二次研究協議会では、中心サークル(恵教研)による授業発表を通して、表現力豊かな歌唱指導の方法を深めることができた。各市町村のレポート発表・曲紹介・実技指導では、有意義な研究の場となった。

中学校は、歌唱の実技研修会(講師前田美子氏)では、「歌唱を通して豊かな表現力を高めよう」をテーマとし、基本的な発声の方法等を学ぶことができた。第二次研究協議会では、中心サークル(恵教研)による授業発表を通して、言葉のリズムによる創作指導について深くすすめることができた。市町村レポート発表では、いろいろな交流ができ有意義であった。また、第二次研究協議会の中では、昨年に引き続き合唱交流会も行き、指導法などを交えながら参加者全員で合唱することができた。

小中合同の理論研修会(講師杉江光氏)では、向陽台中の生徒の合唱指導を通して、表現力を高める指導についての研修や指揮法を学ぶことができた。

### 2. 主題設定の理由

2014年度・2015年度の2年間、「豊かな表現力を高める授業のあり方」をテーマとし研究してきた。小学校では「共通事項」をふまえた授業について研究をすすめ、曲のイメージを持たせ考えさせる方法がみえるような授業を構築し成果が見られた。中学校でも「共通事項」ふまえた研究を深め、題材の扱い方によりいろいろなアプローチ方法があることもわかった。

2016年度の研究では、児童生徒が「主体的に表現する」ことに着目しようと考えた。豊かな表現力を身につけることによって主体的に表現することが可能になり、自分の思いや意図を持って活動できる。また、豊かな表現力を身につけるためには、共通事項(リズム・音の重なり・強弱等)を計画的に授業に盛り込んでいくことが大切である。

音楽の学びを明確にし、児童生徒が自分の考えや感じたことを自由に表現できるようになると「表現することの楽しさ」も味わうことができると考え、主題の設定をした。

### Ⅲ. 研究内容

#### ○小学校…児童が主体的に表現できるように、共通事項を意識した指導法の研究を行う

第二次研究協議会での中心サークルによる授業発表を通して、共通事項に関わり授業を作り、指導を深めてきた。また、講師を招いた器楽の実技研修会では、打楽器指導の基本的な指導方法を学んできた。今年度からは、児童の表現力が豊かになり主体的に表現できるよう実技研修会等を行い、授業実践を積み重ねていきたいと考える。

- ・ 6月21日（火）に講師招き、実技研修を行う。

#### ○中学校…生徒が主体的に表現できるように、共通事項を意識した指導法の研究を行う

小学校同様、第二次研究協議会での中心サークルによる授業発表を通して共通事項に関わり授業を作り、指導を深めてきた。また、講師を招いた歌唱の実技研修会では、基本的な発声の指導方法について学ぶことができた。今年度からは、さらに表現力が豊かになり生徒が主体的に表現できるよう実技研修会や小中合同の理論研修等を行い、授業実践を積み重ねていきたいと考える。

- ・ 7月12日（火）に講師招き、歌唱の実技研修を行う。
- ・ 11月に講師を招き、小中合同の理論研修を行い、研究を深めていく。

### Ⅳ. 研究方法

#### 1. 研修会

- (1) 今年度の研究のすすめ方に基づいた実技指導研修会を開催する。
- (2) 課題を明確にし、指導の手がかりを得るために、理論研修会を開催する。  
(開催場所・内容は、次年度の第2次研究協議会開催市町村部会を優先する)
- (3) 今次研究に有効な教材や指導事例の紹介、部会員の声や問題提起を盛り込むなど、より開かれた部会誌『石音』の発行に努め、共通理解をする。

#### 2. 個人・市町村部会

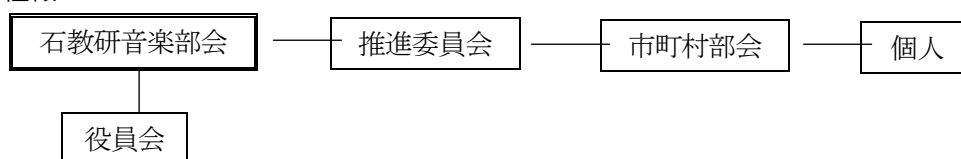
- (1) 研究主題解明に向けて、研究組織・研究の進め方について考え確認しあい、年間構想を立案する。
- (2) 学習会や実技研・授業研などを位置付けて、研究主題の実技検証を行う。またその資料は、部会員に還流する。
- (3) 共同研究の利点を生かし、実践検証した研究の成果を市町村ごとに一つのレポートとしてまとめ、第二次研究協議会で発表し、全体で交流し検証する。  
研究推進委員は、第二次研究協議会に向けて部会員一人一人の役割を明確にし、部会員が研究意欲を高め、推進できるよう連絡を密に行う。

#### 3. 専門部会第二次研究協議会

- (1) 第二次研究協議会開催市町村部会においては、公開授業・学習会・課題解明に結びつく研修の場を事務局と連携を取りながら設定する。そのために、開催市町村部会が中心になって研究グループを組織し、共同研究を進める。各推進委員も公開授業等の共同研究者として、推進委員会の時に指導案を検討する。
- (2) 各市町村部会で研究の成果をレポートとしてまとめ、発表の方法を考え全体で交流し検討する。

## V. 研究体制

### 1. 組織



### 2. 各役員の業務分担

- 部 長 … 部会業務全般（渉外業務も含む）  
講師・助言者選定
- 副 部 長 … 研究計画立案、全般的研究方法の検討  
実技研修会、理論研修会実施要領の検討  
「石狩の教育」執筆、ホームページ  
研修センターから依頼されたホームページ作成  
講師・助言者選定、依頼
- 研 究 員 … 部会研究の具体的方法の検討  
「石狩の教育」執筆
- 教育課程研究員 … 石狩の教育課程の作成  
「石狩の教育」（教育課程関係部分）執筆
- 事 務 局 長 … 運営全般  
情報誌発行
- 事務局次長 … 一般会計  
諸会議録作成

## VI. 年間計画

月	研修会等（情報誌『石音』は適宜発行）
4 月	市町村研究協議会・推進委員研修会①・役員研修会① 専門部会第一次研究協議会
5 月	推進委員研修会②・役員研修会②
6 月	実技研修会（小学校）
7 月	実技研修会（中学校）・推進委員研修会③・役員研修会③
8 月	
9 月	市町村研究協議会
10 月	役員研修会④・拡大推進委員研修会④・専門部会第二次研究協議会
11 月	役員研修会⑤・推進委員研修会⑤・理論研修会
12 月	役員研修会⑥
1 月	推進委員研修会⑥・役員研修会⑦
2 月	市町村研究協議会
3 月	